

百高山シリーズ Last-3(98,99,100)

(大沢岳・中盛丸山・兎岳)

個人山行報告 松井

・山 域・山名 静岡県・赤石山脈(大沢岳・中盛丸山・兎岳)

・日 程 2025.08.23(土)~26(火) 3泊4日 晴れ~曇り

・参加者：松井

・コース実績

23(土): 畑薙バス 7:30→榎島ロッジ 8:30/8:37 出発→歩荷返 12:34→大赤石小屋 13:39(泊)

●コース状況：榎島ロッジから赤石小屋までは標高差 1400m を黙々と登る。歩荷返し先は巨岩を巻きながらの登り。

24(日): 小屋 5:27 出発→富士見平 6:10→北沢源頭 7:21→赤石岳分岐 8:28→赤石岳 8:51→赤石避難小屋 8:56~9:13(ライチョウ観察)→百間平 10:50~11:00→百間沢源流部 11:45~56→百間洞山の家 12:04(泊)

●コース状況：赤石岳までは栈橋の巻き道やザレの急登。赤石避難小屋周辺はライチョウ天国。そこから先はグングン下り、百間平で息抜きできるがすぐに急な下り。ダケカンバの中に百間洞山の家が突然見えてくる。

25(月): 小屋 5:00→大沢分岐 5:50→大沢岳 6:10→中盛丸山 6:40→小兎岳 7:35→兎岳 8:28~36→兎岳避難小屋 9:05→聖兎ノコル 9:17→聖岳取り付き 9:27→聖岳 10:59~11:20(昼食休憩)→小聖岳 11:59→薊畑 12:40→聖平小屋 13:05(泊)

●コース状況：本コースのハイライト。アップダウンの連続。

26(火): 小屋 5:22→滝見岩頭 6:10→吊り橋 6:50→聖岳展望所 7:17→聖沢吊り橋 8:27→聖沢登山口 9:48→榎島ロッジ 10:30/バス 10:30 発→畑薙バス停駐車場 11:40

●コース状況：緩やかなアップダウン、崩壊地のトラバース、吊り橋有り。榎島ロッジまでは車道歩き。

百高山?? 知らないと言う人も多いと思うが、これは国土地理院が日本のおもな山 1003 山の標高を調査して一覧表にまとめたもので標高 Top100 山を百高山と呼んでいるもので、ここで調査してとは、三角点が必ずしも最高点でない山は再調査してその山の標高を定めた。Top はもちろん富士山の 3776m で 100 番目は仙・塩尾根上にある新蛇抜山の 2667m。

深田久弥の日本百名山が終わったので次は 200 名山か 300 名山かと果てしなく続く名山に再挑戦するのも考えてみたが、やり始めても終わらないだろうし、難しいのは山域が全国に散らばっている事だ。諦めて百高山に切り替えた。幸い百名山が終わった時点ですでに 69 座を踏んでいた。白山を除き北アルプス、南アルプス、中央アルプスに集中していることも好条件だ。

百高に関心の無い当時は当たり前の様に巻き道を通っていた山も幾つかあり改めて登頂。(抜戸岳、三ッ岳、東大天井岳、横通岳など)

残り少なくなると案の定大変そうな山が残った。赤牛岳、蝙蝠岳、白根南嶺(広河内岳・大籠岳・笹山)、そして今回の三山。

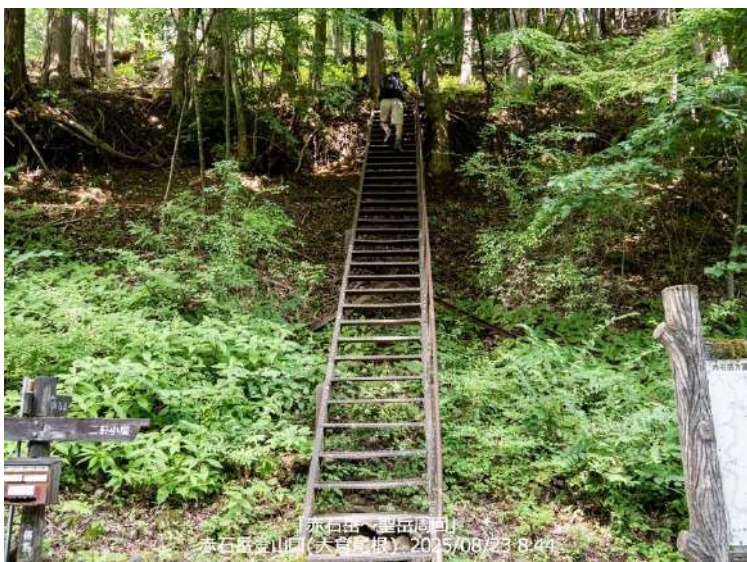
Last3山はT・フォレストの管轄で小屋予約が取りにくいハードルの高い山域。平日を絡めてソロで漸く予約 Get! アップダウンで評判の高い兎岳、小兎岳の縦走、大丈夫? と不安もあったが条件もそろったので実施する事にした。

まず、畑薙臨時駐車場までの経路だが富士見峠経由と口坂本温泉経由の二つの経路がある。数年に一度くらいしか行く事が無いので Google map の指示に従うと富士見峠ルートを選択。しかしこの道狭いしカーブ多いし富士見峠まで登りがズーと続き峠からはズーと下る。この登り無駄じゃない? って思って帰りは口坂本ルートにしてみたが狭いしカーブ多いしってのは大差なかった。奥シズ道狭し!!



7時畑薙臨時駐車場に着くと7~8割埋まっていた。予約の7:30発のバスに乗車、バスは3台待機していた。2号車に乗車、窓側の乗者はバス備え付けのヘルメット着用。また聖沢登山口での降車もOKで乗車時に前のシートを用意してくれる。

9時到着の予定が8:30の到着と少し早まった。途中“あの“崩壊地がどんなになっているのか気になっていたが、斜面の表皮がはげ落ち岩が露出し落石防止の壁が設けられていた。復旧工事の車両が列をなしていた。



今日は赤石小屋までの5時間程の歩きなので気分的には余裕。鉄ハシゴを登り整備された登山道を淡々と登る。歩荷返しの先は巨岩を巻きながらの登高となる。

岩を見ながら1926年8月、一代で大財閥を築いた大倉喜八郎が赤石岳に登ったという話を思い出した。

当時の新聞には「(数え年) 90 歳の壮挙」と、200 人と言われる配下を従えた「大名登山」が話題に。自分はかごで担がれ、「金に任せて」風呂おけも運んだなど破天荒な話だらけだ。

「東海パルプ」(旧東海紙料、現新東海製紙)の社史などによると、出発地の静岡駅から赤石岳まで距離は 70 キロ以上。現在も登山口の榎島(さわらじま)まで、さかのぼる大井川沿いの道を事前に整備。榎島から山頂までの本格的山道は 1 カ月前から延べ 2000 人以上が道を切り開いたという。

登山には東海紙料の幹部十数人が付き添い、大倉氏の身の回りの世話係、荷物運搬係らが行列を作った。畳や布団、寝台、机、酒だる、ビール、シャンパンも運んだ。道中、豆腐を作ったとの話もある。往復で一行が使った草履は実に 7000 足という。

「目の黒いうちに見ておきたい」と考えた大倉喜八郎の一生一代の壮挙か愚挙か？

かごではとても無理なところがあるが背負子に付けた椅子に後ろ向きで腰掛け、山男がそれを背負ったそうだ。こうして大倉尾根登山道が整備され、今その恩恵にあずかっている。感謝。

赤石小屋到着時には稜線はガスに覆われていたが、夕食時になると食堂の窓から左手に赤石岳、右手に荒川岳がくっきりと見える様になった。明日に大いに期待がかかる。

開けて二日目、天気は快晴！！今日は百間洞山の家までの 5 時間ほどの歩き。山の家で昼食の予定だ。5:37 明るくなってからの出発。



「赤石岳～聖岳周回」 2025/08/24 5:22
赤石小屋の小屋番長さん

【朝早くから良く働く
小屋番長さん】



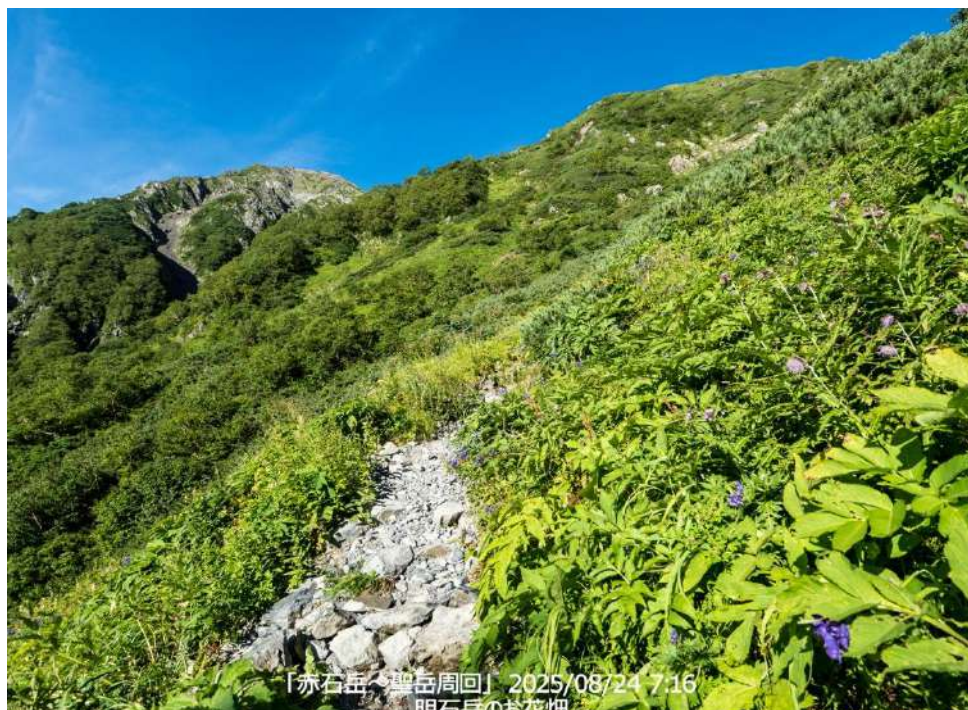
「赤石岳～聖岳周回」 2025/08/24 6:05
富士見平から正面に赤石岳を見る。

【富士見平は赤
石岳が真正面に
見える大展望地】

低いハイマツと広い台地となった富士見平に登ると正面に大きな赤石岳が出現。荒川岳～赤石岳～聖岳の大パノラマが展望できる。

この先からは栈橋、涸れ沢徒渉、ザレ場などが連続しやや危険地帯。上部の北沢源頭部では美味しい湧水が豊富に出ている。斜面は急だが一面のお花畑となっていた。

稜線まで上がると赤石岳の山頂はすぐそこ。山頂に上がるとガスが上がって来た。山頂の標柱は数年前の落雷で縦に裂け今もそのままだ。



【北沢源頭部付近は一面のお花畑】



すぐ下の避難小屋で休憩、小さな小屋で予約の難しい小屋。一度泊まって満天の星空観察でもしてみたい。

小屋の周辺は「ライチョウ天国」だった。数も多く人との距離も近く、何気にポーズもとってくれているようだ。

【稜線に上がると山頂はすぐそこ】

【山頂標柱は割れたままだ】



【ライチョウ天国の赤石岳山頂】



ここから百間洞山の家までは約 600 メートルの下り。下り始めるとすぐにザレザレの急下り、登ってくる人も大変そうだ。自分と逆回りの人に話を聞くと、「兎岳～小兎岳のアップダウンは半端ないけど達成感も半端ない。」と。

【赤石岳からは先の見えな
い急な下りが続いている】



➡【百間平】

百間平は平で広くて休憩には適地だが平ら過ぎて日差しを遮るものが無い。今日は天気良すぎて長いとは出来ない。百間洞山の家までは再びザレタ急下りが始まる。谷底に向かって下っている様だがダケカンバの林の中から赤い屋根の小屋が現れた。

【百間洞山の家が現れる】

小屋の横には小川が流れメルヘンチックな雰囲気満点のナイスな小屋だ。

昼食をしながら山の話に花が咲く・・・。沢登りをしながらこの小屋に来たという 3 人グループ、明日は樺島 10 時のバスに乗ると言っていたが正気？ またソロの方は三伏峠から来たとの事で明日は茶臼岳から沼平下山とか・・・。 この小屋に来る人



達はどこか次元の違いを感じる者ばかりだった。

明けて3日目は4時頃は小雨まじりの天気だが当然の様にみんな出発して残っているのは自分一人。雨のヘッディンは危険なので明るくなるのを待って出発。雨具で歩き出したがすぐに雨は上がった。稜線に向かってトラバース気味に高度を上げる。中盛丸山がおにぎり🍙の様にデーンと



【小兎～兎～聖への稜線】

噂ほどではなかった。小兎岳は二つピーク有り。二つ目に立つと兎岳の前方が見えてくる。少し下って見上げる。聳え立っているが標高差は140メートルであっという間。ここも噂ほどではなかった。2799.8mの

目立つ。大沢岳は分岐から登り返して往復40分ほど、分岐に戻り🍙に向かう。鞍部からの標高差は100メートル、見た目ほど登り応えはなくあっという間だった。小兎岳手前の鞍部まで結構な下り、小兎岳までは100メートルの登りであっという間。



三角点が 100 メートルほど西に有るがパス。ここから「聖・兎ノコル」に向かって 200 メートルの下降。この間は細尾根、アップダウン、トラバースを繰り返す複雑な尾根だった。

聖岳の取り付きには赤色チャートの大岩壁と石片が散乱している。山頂まで 430 メートルの登り、あいにくガスが沸き上がってきて山頂からの展望は無し。



聖平小屋に下って昼食タイム。ランチメニューのカレーもあり、おいしそうだった。とりあえずビールで喉を潤す。団体客もいて結構な賑わいだった。

最終日は樫島ロッジまで戻るだけ、バスの時間にも余裕があるのでゆっくりしていたら 5 時間前には全員出発し、またしても自分一人残る。小屋番さんがシュラフをかたづけ始めたのでさすがに寝ているわけにはいかず明るくなった 5:22 出発。聖沢登山口までは崩壊地の高巻きな



どが多数あり結構なアップダウンがある。途中の展望地からは聖岳とその東尾根が展望できた。聖沢吊り橋あたりまで下ると一番のバスの登山者がわんさかと登って来た。ご苦労様です。

聖沢登山口からは車道歩きで約 50 分。登山口の鉄ハシゴに 10:32 に着くと 10:30 発の畑薙行きのバスがやって来た。予約のバスではなかったが運良く助手席が空いていたので乗せていただいた。予定より 1 時間半ほど早い到着となった。

日程に余裕を持たせたので噂ほどの大変さは感じなかった。

無事踏破出来た事に感謝。<終わり>



【みんないなくなった聖平小屋を後にする】